

デザインディレクターから見た 「まさかのとき」 のiPhone

デジタルデバイスと文具にも深い造詣を持つ世界的なプロダクトデザイナー、川崎和男さんに、iPhoneとiPadの文具的な使い方から、まさかに備えた活用方法を聞いてみた。

photo: 澤田耕一

iPhone
とiPadの文具
文房具



自作のスタイラスペンで「SketchBook Pro」を使ってスケッチをする川崎和男さん。川崎さんにとってiPadは、デザインワークに使うスケッチブックだ。

「フダン」と「マサカ」で
使い分ける
iPhoneは



川崎和男さん

デザインディレクター、大阪大学大学院教授・博士(医学)。1949年福井市生まれ。伝統工芸品からメカやコンピュータ、ロボット、原子力エネルギー、人工臓器、先端医療、海軍戦略、宇宙空間の装置化などで幅広くデザイン活動を行う。シブ・オブ・ザ・イヤーや日本文具大賞の審査委員などを務めている。

「まさか」に備えたストラップ

首とハンコがついたiPhone。ストラップには日本の伝統工芸の組紐を使っている。フレコンしんちゃんシロのキャラは意外? 裏が普段使いの画面拭きになる。



川崎和男さん
のお気に入り
グッズ!

SHOT NOTEで ざざっとメモ

スタッフへの指示などをざざっと書いて共有するのに使用。ボールペンは、カルティエの「パラジウムフィニッシュ・ブルーレジンコレクション」だ。



こだわりの 万年筆コレクション

今回はコレクションの中で最近のお気に入りを選んで見せてもらった。「万年筆について話すと永遠に止まらない」とのこと。

を別のペンシルホルダーに挿して使っています。ペン先の太さとペンの重心バランスが重要なんです。現在、日本文具大賞の審査委員を務める川崎さんだけあって、デジタルだけでなくアナログのペンに対するこだわりも強い。聞くと、万年筆やボールペンのコレクションは、数百本にも及ぶということだ。

iPhoneを使い分ける
川崎さんは、スケッチやメモのほかに、普段iPhoneをどのように利用しているか、聞いてみたところ、次のような答えが返ってきた。

「私はiPhoneを使うにあたっての基本としては、ボタンとマサカでメニューを分けています。日々iPhoneを普段使いするだけなら、

まさかのときに備えるという意味です。東日本大震災以降、すべて日本人にいつ、まさかのときが来てもおかしくありません。地震などの災害が起きたら、手ぶらで逃げるといったのが基本です。そこで、ポケットにiPhoneを入れておくことが災害を生き抜くのに役立つことがあります。例えば、iPhoneの中には、常日頃から保険証や貯金通帳の番号など、お金に関する情報を入れておくことが重要です。」

**ストラップに込める
まさかの準備**
またとないだけでなく、iPhoneのアクセサリについても、まさかに備えるのが大事とのことだ。「多くの人がキャラなどのアクセサリなどをストラップにつけていますが、まさか

のときに次の2つのものも備えておくといでしょう。それは、首とハンコです。首は、万が一、建物や家具に埋もれて動けなくなったらような場合、助けを呼ぶのに役立ちます。私が取り組んでいる「PKD(ピースキーピング・デザイン)」というプロジェクトで開発したアプリ「HELP CALL」も災害時に助けを呼ぶ仕掛けが用意されています。これをインストールしておくのもいいでしょう。もうひとつのハンコは、東日本大震災の後に、避難所や仮設住宅にいる人に役所が書類に捺印を求めるといったことがあったそうです。家が流された被災者の方は、当然ながらハンコなど持っていない。そういった、まさかに備えて、ストラップタイプのハンコをiPhoneにつけておくといでしょう。」



売っているストラップでは、紐がいいものは見つかりません。私が探した中では、日本の組紐が優れています。日本人なら、ストラップはぜひ日本の伝統工芸のいいものを選んでほしいですね。

